

『登別市地域おこし協力隊員』が着任しました



『登別市地域おこし協力隊員』として着任した福原豊之さん(右)と小山則彦さん。

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、総務省が推進する事業で、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図り、地域力の維持・強化を行う取り組みです。

市でも、本年度からこの事業に取り組み、4月から2人の『登別市地域おこし協力隊員』を受け入れています。

隊員は、定められた時間の中で、市嘱託員(専門員)としてそれぞれが所属するグループで業務に従事する一方、業務時間外には、自主的に市民活動や地域行事イベントなどへ参加し、市民の皆さんと交流を図りながら地域に溶け込むとともに、将来的に定住を目指していきます。

市民の皆さんのお近くで『登別市地域おこし協力隊員』の知恵や力を借りたいことなどがありませんでしたら、お気軽に声を掛けてください。



福原 豊之さん

企画調整グループ所属『交流活動専門員』(☎011-222)

地域おこし協力隊として、また登別市民として4月1日から皆さんのお世話になります。どうぞよろしくお願ひします。

登別は、私の出身地である神戸でも知らない人がいないほど人気が高く憧れの温泉地です。私も観光で北海道を訪れた際、登別の湯につかり幸せな気分を味わいました。

登別市が地域おこし協力隊を募集していることを知り、好奇心の強い私は「温泉以外の登別の魅力を見つけてみたい」という気持ちになり応募しました。引越してきたばかりですが、毎日が新鮮で驚くことがいっぱいあります。

皆さんと一緒に新しい魅力の種を見つけ、『まち』の活力の芽として育てていきたいと願っていますので、気軽に声をかけていただければうれしいです。



小山 則彦さん

商工労政グループ所属『産業活性化専門員』(☎011-2171)

私は登別市と隣接する壮瞥町の出身です。北海道を離れ40年になります。このたび、登別市の地域おこし協力隊員として、大阪よりまいりました。

東京や大阪では長年、広告業界に身を置き、企画・制作の仕事のほか、デザイン専門学校(大阪・京都・名古屋)で講師もしてきました。

登別は「温泉」で知られ、全国はもとより、東アジアなどからのお客さまも多く訪れる有名な観光地です。地域おこし協力隊員として、市内で活動されている企業や地場産業の方とのコミュニケーションを図り、『温泉』ブランドとの相乗効果を見据えながら、お役にたてる活性化への活動にまい進してまいります。

『登別市地域おこし協力隊員』が着任しました